


財団法人日中医学協会
2005年度共同研究等助成金－日本人研究者派遣－報告書

2005 年 6 月 15 日

財団法人 日中医学協会 御中

貴財団より助成金を受領して行った訪中交流について報告いたします。

添付資料：訪中報告書

受給者氏名： 佐久間 康夫 

所属機関名： 日本医科大学

所属部署： 生理学第一講座 職名： 教授

所在地： 〒113-0086 東京都千駄木1-1-5

電話： 03-3822-2131 内線： 5356

1. 助成金額： 200,000 円

2. テーマ

脳の性差と性行動の調節

3. 成果の概要（100字程度）

①遼寧中医学院客員教授の称号を受け、年1回講演をすることを承諾。②共同研究するため、協会から頂いた20万円の助成金で実験設備を買い、寄付。③毎年日本医科大学から研究指導者を派遣。④修士課程終了者から、優秀者を選び、日本医科大学博士課程に留学を手配。

4. 招聘機関

機関名： 遼寧中医学院 代表者名： 馬 驥 職名： 院長
所在地： 中国遼寧省瀋陽市黄姑区崇山東路79号

5. 滞在日程概要（日付、主な旅程・行事等）

5月26日 成田空港から、中国・瀋陽へ
27日 遼寧中医学院学長に挨拶、大学および大学病院の見学
30日 遼寧中医学院基礎医学院訪問、生理学教研室主任教授らと会談
31日 遼寧中医学院針灸推拿学院電気生理研究室の見学および交流会
6月1日 共同研究などについて、副学長と会談。講演：「脳の性分化」
2日 瀋陽から帰国

脳の性差と性行動の調節

研究者氏名 佐久間 康夫
研究機関名 日本医科大学大学院
システム生理学分野

要旨

1. 訪問の目的：

- ① 教育方法の交流：私共の教室で行っている先進的な生理学教育、実習課程を中国側に紹介する。
- ② 研究技術の交流：我々が文部科学省特定領域「研究性分化」の助成により進めている脳の性分化の研究の成果を紹介する。
- ③ 共同研究の立案：日本医科大学と遼寧中医学院の教育・研究交流の実施計画を立案する。

2. 訪問の経緯：

遼寧中医学院助教授肖凱君は貴財団の援助により、日中笹川医学研究者制度第24期研究者として日本医科大学生理学第一講座において1年間の研究を行った後、本学大学院に入学し、2006年3月学位取得の見込みです。肖凱君はこの4年間、中国からの留学生の模範となる努力を重ね、刮目すべき研究成果を挙げました。学位取得後は助教授として在職している遼寧中医学院に戻り、現在の研究を持続する強い意志を持っております。遼寧中医学院でも巨大な研究センタービルを新築するなど、基礎医学研究の重要性を認識し、研究活動を推進する準備が進んでおり、肖君の帰国後の役割に大きな期待が寄せられています。このような経過を背景に、遼寧中医学院馬驥院長は、肖凱君の懇意により、日本における教育・研究体験を聴取する目的で小職を招聘されるに至りました。小職としても、この機会に遼寧中医学院の実情を視察することは大変意義あることと考えた次第です。

訪問の日程：

- 5月26日 成田空港から、中国・瀋陽へ
- 5月27日 午前：遼寧中医学院学長に挨拶、大学見学
午後：遼寧中医学院の大学生と大学院生に講演：「脳の性分化」
- 5月30日 午前：遼寧中医学院基礎医学院生理学教研室の先生方と会談
午後：実験の指導
- 5月31日 午前：遼寧中医学院電気生理研究室の見学（研究室現状の調査）および交流会
午後：遼寧中医学院科研処主催の交流会：「行動生理学の研究手法」

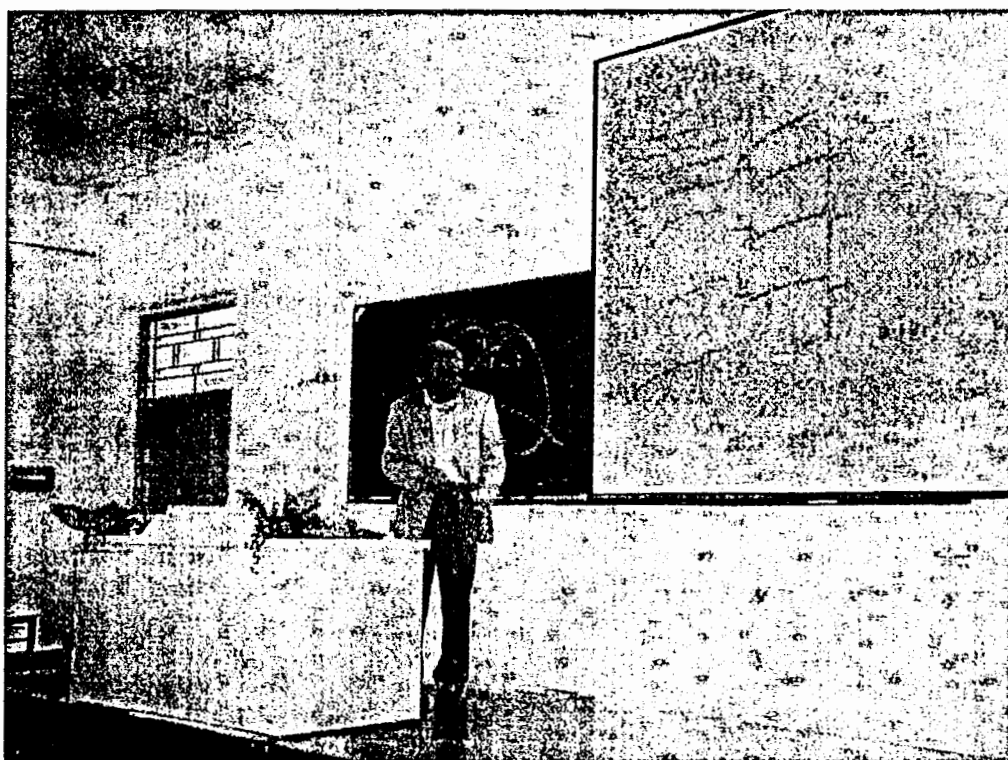
6月1日 午前：共同研究の再相談及び共同研究計画の調印

午後：遼寧中醫院長に挨拶

6月2日 瀋陽から帰国

講演内容：

訪問期間に、大学院生及び学部学生に向けて、「脳の性差と性行動の調節」という講演を行ないました。前半では、この領域における最新の研究動向を紹介し、後半では、当教室の研究成果を紹介しました。講演後、たくさんの学生からたいへん熱心な質問を受け、非常に充実した時間を過ごすことができました。中には、日本語が堪能な学生や日本への留学を志す学生もいて、中国の若い人たちの熱意を感じました。



指導の内容：

1. 大学生の生理学実験に参加させてもらい、実験中に、当教室の実習方法を紹介し、学生に具体的な実技について教授しました。
2. 電気生理学実験室の先生方と交流したうえ、新規に購入した機械の有効な利用方法および応用例などを議論しました。

訪問先の状況:

遼寧中医学院内の研究施設ならびに大学病院を見学いたしました。遼寧中医学院は、遼寧中医薬大学へと発展するためにさまざまな計画が動いております。特に、基礎研究分野においては、新しい研究センターとする核とするビルを建設しており、中国全土および全世界から人材の募集を呼びかけおり、その活力や発展の息吹を実感することができました。ところが、現在の段階において、いろいろ方面はかなり遅れているのは事実です。



今後の交流:

遼寧中医学院では、馬驥学長をはじめ、康廷国副学長、基礎医学院長の鄭洪新教授、針灸推拿学院の裴景春教授、研究処長の張立德教授、生理学教研室主任の王徳山教授、電気生理学研究室主任の鄭利岩教授など、たいへん多くの先生方と会談し、次のような合意を得ました。

- ① 遼寧中医学院客員教授の称号を受け、年1回講演をすることを承諾する。
- ② 今後、共同研究を展開させるべく、必要に応じて人的・物的サポートを行なう。
- ③ 毎年、日本医科大学から研究指導者を派遣し、教育活動を行なう。
- ④ 優秀な修士課程終了者が日本に留学できるよう、日本医科大学大学院の受け入れ体制を整える。

2005年10月6日